

事務事業名		公用車更新事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	5 市民みんなで作る夢のあるまちづくり					担当組織	担当部	総合政策部	担当課	財産管理課
	政策	2 自立した行政経営によるまちづくり					担当係		管財係	担当課長名	横塚 治
	施策	1 効率的な行政経営の推進					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 効率的・効果的な事務事業の推進と組織編成					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	1143	一般	2	1	6	公用車更新事業					
	事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業		任意的事業・義務的事業		任意的事業		
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H21年度～ 年度		根拠法令 条例等	佐野市有自動車等使用及び管理規程 佐野市インターネット入札要綱		実施方法		直営	
								事業分類		その他内部事務事業	
								リーディングプロジェクト		該当なし	
								市長マニフェスト		該当なし	

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)							
約400台保有する公用車の内、取得年月の古い更新時期を迎えている車両及び状態の悪い車両の更新を行う。 更新にあたっては、佐野市役所グリーン調達推進方針に基づき、環境に配慮した車種とする。			<ul style="list-style-type: none"> 当初計画どおり、低公害車両7台を新規購入した。 【軽貨物自動車(ワンボックスタイプ)3台、小型貨物自動車(バンタイプ)1台、小型乗用自動車(ハイブリッド車)3台】 購入車を集中管理車として配置し、取得年月が古く状態の悪い車両を廃車処分することにより効率的な管理運営に努めた。 							
			活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			公用車台数	台	371	401	400			
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
<ul style="list-style-type: none"> 処分車両 新規購入車両 			対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			処分車両(市全体)	台	21	10	15			
			新規購入車両(市全体)	台	17	9	15			
			新規購入車両(当事業)	台	5	7	12			
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
乗車する職員の安全性を保ち、環境に配慮した車両(低公害車)の導入を進める。			成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
			低公害車台数	台	88	95	107			
			低公害車台数割合(低公害車台数/公用車台数)	%	23.7	23.7	26.8			
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)										
市有財産が有効に活用されている			上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
			実質公債費比率	%	6.3	10.0	10.0			

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)			
	国庫支出金	千円								
	県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円								
	一般財源	千円	5,142	8,872	15,694					
	事業費計(A)	千円	5,142	8,872	15,694	0	0			
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			手数料	143	手数料	246	手数料	460		
			自動車保険料	227	自動車保険料	353	自動車保険料	578		
機械器具費			4,767	機械器具費	8,265	機械器具費	14,520			
自動車重量税			5	自動車重量税	8	自動車重量税	136			
人件費	人	1	1	1						
のべ業務時間	時間	85	85	85						
人件費計(B)	千円	331	335	335	0	0				
トータルコスト(A)+(B)	千円	5,473	9,207	16,029	0	0				

事務事業名	公用車更新事業	担当部	総合政策部	担当課	財産管理課	担当係	管財係
-------	---------	-----	-------	-----	-------	-----	-----

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	国による地域活性化・経済危機対策臨時交付金の活用ができたことから、平成21年度に更新時期を迎えた車両の処分及びそれに代わる新規に車両の購入が必要であることから開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	財政状況がさらに厳しくなるなか、更なる経費節減が求められてきている。環境に配慮した低公害・省エネルギー車両の導入が急務となっている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	集中管理による効率的運用と車両台数の節減

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	・低公害車及び低燃費車を購入し、7台中3台にハイブリッド車で更新した。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	
	結びついている	理由・改善案 維持管理経費のかかる古い車両を処分し、環境に配慮した性能の優れた車両を導入することで、車両維持管理経費の節減に結びつく。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	
	委ねられる・委ねられる可能性がある	理由・改善案 自家用公用車として保有しているため、所有者が維持、管理しなければならない。市の所有を止め、リース車両を導入するという想定であれば、委ねられる可能性はある。
有効性 評価	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	
	妥当である	理由・改善案 自家用公用車として保有しているため、処分する車両と購入する車両に対象は限られる。
	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	
	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案 更なる効率的な稼働を目指し、低公害車・低燃費車の導入及び適正台数への調整を図る。
効率性 評価	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	
	類似事務事業はない	理由・改善案 特殊車両は各所管課で更新を行う。
	*類似事務事業があれば、名称を記入	
公平性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	
	削減の余地はない	理由・改善案 競争入札により購入しており、必要最低限の車種・オプション装備であるため削減する余地はない。
総合 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	
	受益者負担を求めない	理由・改善案 自家用車両であるため、料金の収受は難しい。
	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	
	公用車全体の取得後の平均使用年数は上昇しており、計画的に更新を進めなければ将来的に一度に大量の車両を更新しなければならない事態が想定されるため、財政状況の許す限り、毎年更新を続けることが望ましい。もしくは、全車両をリース方式に変更することで、事業は終了する。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
事業のやり方改善(成果向上の見直し) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) ・燃費、環境性能の高い車両の比率を上げることで、更新期間を長くし、更新費用及び維持管理費用の削減を図る。	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×	全体の車両台数が多い中、燃費・環境性能の高い車両の比率を上げるには長期間要する。毎年、更新を継続することが必要。 市有車をリース車両に変更することは考えられるが、成果(環境性能の高い車の導入)は変わらない一方、市有車両は長期間使用するため、コストは高くなることが予想される。
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上		○																						
	維持			×																					
	低下		×	×																					